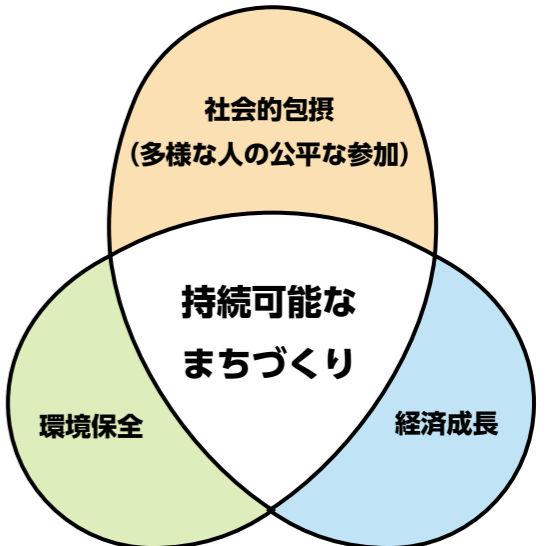


みんなでつくる

2030年の福津

「まちづくり基本構想（第2次総合計画）」案の意見を募集しています。市のまちづくりの大きな指針となる「まちづくり基本構想（第2次総合計画）」は、これまで市民の皆さんからいただいた市の課題や将来のビジョンを基に、総合計画審議会で審議してきました。そして今回、まちづくり基本構想案が完成しました。現在のこのまちづくり基本構想案について、市民の皆さんから意見を募集しています。今号ではその概要を紹介します。



▲持続可能なまちづくりに必要な3つの要素

7つのテーマ別目標像

持続可能なまちづくりを進めるためには、環境保全、経済成長、社会的包摂（多様な人が公平に参加すること）という3つの要素が調和して向上することが必要です。

この考え方は、国連が呼びかけ、全世界で取り組むことを決めた「SDGs」*が目指す方向性と同じです。そこで、SDGsの目標年である2030年に合わせ、市が2030年に実現したい未来のイメージを描き、そこを起点に何をすべきかを考えました。

第1次総合計画策定時の思い、現在の状況と課題を踏まえ、これから目指す7つのテーマ別目標像、取り組み方針、基本方針を設定しました。

※SDGs（エスディー・ジーズ、Sustainable Development Goals）とは、持続可能な開発目標として2015年に国際連合のサミットで採択されたもの。国際社会全体が2030年までに17の目標（ゴール）と169のターゲットを設定し「誰一人取り残さない」社会を目指す取り組み。

1 地域に誇りを持つ「未来の創り手が育つまち」

2030年のイメージ
福津で学び育った子どもたちは、大人になっても地域活動で活躍し、若者が主体的に運営するイベントや団体の活動が盛んなまちとして注目されるようになりました。

子どもが生まれる前から始まる地域子育て包括支援のしくみでは、地域のさまざまな子育て支援をする個人や団体が子育て世代に寄り添い、安

心して子育てができる環境を築いています。

小中学校では、各学校がそれぞれの校区の特性に応じた特色のある教育活動に取り組んでいます。たくさんの方の市民が関わって、次代の担い手育成に取り組んでいます。

取り組み方針
予想を超える社会的変化が進展する時代において、未来に向けて学び続け、さまざまな人々と協力して未来の創り手となる人づくりこそが、福津の未来の鍵を握っています。

え方や生き方が尊重され、性別や年齢、国籍にかかわらず、人それぞれの持つ力を磨きをかけ、それを発揮し、一人一人の自己実現ができるまち。また、郷土を愛する心と誇りを持ち、たくましく生きる力を身に付け、誰もが地域の担い手として育つまちを目指します。

基本方針
1. 子どもの居場所や主体的な参加の機会を促進する
2. 子育て中の親を支援する環境を充実させる
3. 豊かな体験を育み、社会に開かれた教育を推進する

2 地域自治人がつながり活躍する共助と共働のまち

2030年のイメージ
自治会、防犯・防災の自主運営組織への参加率が高く、いろいろな世代が郷づくりの活動へも参加するようになり、支え合う活動が活発になってきました。また、郷づくりを中心に、自分たちの地域に合った主体的な運営が進んでいます。郷づくりの活動は、幅広い担い手が運営に関わることに、長続きしています。

取り組み方針
郷づくりの基軸となる自治会単位の取り組みや郷づくり

の活動をさらに充実させ、住民同士で助け合う心を育みながら、人がつながり活躍する「共助」のまちを目指します。

また、誰もが未来への夢や希望を描き、語り合い、つながり合い、自立的に行動できる環境づくりが必要です。市民、NPO、企業などが行政と情報や課題を共有し、役割分担をしながら、対等な立場で一緒に行動する「共働」のまちを目指します。

基本方針
1. 郷づくりによる地域自治の推進を支援する
2. 郷づくりの担い手育成と幅広い市民参加を促進する
3. さまざまな個人や団体間の共働を推進する

審議会委員に聞く 2030年の福津



健康で幸せに過ごしていける福津に
市民の皆さんの思いを総合計画に反映させるべく会長を引き受けました。市民と行政がチームワークを発揮し共に役割を果たしながら、健康で幸せに過ごしていけるまちにしていきたいです。

▶移住支援や古民家再生などに取り組む「津屋崎ランチ」の代表で、市総合計画審議会の会長の山口覚さん

明るい未来のある福津のために

総合計画の審議会委員を経験し「人任せではなく市民として市の将来を真剣に考える」ということを学びました。これからも豊かな環境の中で幸せを感じ、明るい未来ある福津であってほしいです。

◀つやざきアンビシャス広場推進員で、第1次総合計画でも審議会委員を務めた、市総合計画審議会委員の橋内京子さん



これまでの策定経過と今後の課程

- 【平成 28 年度】
- 7月 キックオフフォーラム
- 8～11月 郷づくり地域別意見交換会
- 2月 市民アンケート調査
- 8～3月 分野別ワーキング会議
- 2月 民間と行政との意見交換会
- 9～2月 広報紙でのアンケート
- 【平成 29 年度】
- 8～12月 ふくつ未来会議「市民会議」「未来づくりワークショップ」
- 【平成 30 年度】
- 4月～ 総合計画審議会
- 9月25日～10月25日 まちづくり基本構想案についての市民意見公募
- 10月17日（水）まちづくり基本構想について語り合う会
- 11月7日（水）予定 第5回総合計画審議会
- 12月 基本構想を市議会に上程、議決を経て策定予定

3 健康で生き生きと暮らせるまち

2030年のイメージ
子どもから高齢者まで、さまざまな年代や立場の人が交流する場が市内の各地で運営され、笑い声が絶えません。誰もが、人に会う楽しみや生きがいを感じながら、生き生き

々と暮らしています。

また、生涯学習の取り組みでは、講座が充実し、たくさんの方の市民ボランティアが活躍しています。市民一人一人が、その人らしい生き方や働き方ができる環境に向かっていきます。

取り組み方針
子どもの頃から健康習慣を身に付け、市民一人一人が、生涯を健やかに過ごせるよう、健康づくりに取り組みます。

また、住民同士がともに助け合い、支え合う地域づくりによって、誰もが健康で生き生きと暮らせるまちを目指します。

基本方針
1. 日常の中での健康づくりの取り組みを推進する
2. 生涯学習や活躍の機会を通じた生きがいを増進する
3. すべての人の自己決定や意思尊重を大切にすべく育てる

わたしたちの福津市に ぜひご意見ください

おかげさまで全国住みよさランキングや各種メディアで注目いただいている福津。この発展を、この良き“循環”を継承し、未来の世代にも慕われ、愛される故郷にするための重要なビジョン、まちづくり基本構想（第2次福津市総合計画）案をようやく市民の皆さまにご呈示できる運びとなりました。

昨年3月の市長就任直後より私が最優先に取り組んだことは、第2次総合計画の策定に市民が参加する場をつくることでした。具体的には「市民会議」と「未来づくりワークショップ」を開き、市の課題と将来ビジョンを対話の手法で話し合っていました。

そして今年度は、経済、社会、環境などの分野で活躍される専門家に総合計画審議会の委員をお願いし、福津の良さをより伸ばしていきたいながら、先進的に取り組んでいくべき持続可能な地方自治体の理想とモデルを、どう掲げていくべきか話し合っていました。このたびその案について、市民意見公募を行っています。また審議会の皆さまが「まちづくり基本構想について語り合う会」を設けていただきましたので、ぜひご参加ください。

今後はこうした計画策定の手法などをひな形に、各種分野別計画や事業を市民の皆さまと推進していく所存です。本案を多くの皆さまに手に取っていただき、ご意見賜りますようお願い申し上げます。 福津市長 原崎智仁



2030年のイメージ
地域経済の活性化に向けて、持続可能な観光開発と農水産業の担い手育成、起業・継業者支援の取り組みが推進され、市内の経済循環を促す基盤が整いつつあります。豊かな自然環境や対話的な深い学びの魅力にひかれた人材が多数移住したり新しい居住スタイルを楽しんだりしています。また、遠隔地にある職場とインターネットでつながって仕事をする人などが、福津で質の高い暮らしを楽しみながら働

基本方針
1. 農水産業分野の収益性を向上させ、担い手を育てる
2. 多様な産業が連携し、地産地消を促進する
3. 起業・継業促進と事業所誘致で、働く場を増やす

2030年のイメージ
持続可能な観光を推進し、農家、漁家の人々との交流や、環境保全の活動への参加など、豊かな自然を生かした体験型の観光で福津を訪れる人が増えています。
また、持続可能な観光のうち一つの柱として、企業や行政機関、教育機関向けの研修地として国内外に知られ、多様な人が学びに訪れています。国内外から訪れる人をやさしく受け入れるまちになっていく、外国語を使って、福津の

基本方針
1. 国内外の人が何度も訪れたい魅力を生かす
2. ブランディングとプロモーションを強化する
3. 観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する

まちづくり基本構想案に対する市民意見公募を実施しています
広報9月15日号でお知らせしたとおり、まちづくり基本構想案に対し、市民の皆さまから意見を現在募集しています。素案の閲覧場所や意見の提出方法など、詳しくは広報9月15日号または市公式ホームページでご確認ください。
受付期限 10月25日（木）
問い合わせ
まちづくり基本構想案について 市広報秘書課 ☎43・8113

6 地域産業 地域の産業が 経済を支えるまち

2030年のイメージ
活力あふれるまちであるためには、地域産業を育て、働く場を増やすことが必要です。また、市外に流出していた購買力を市内に取り戻し、市内消費額をさらに増やすこととあわせ、地域内で経済が循環するまちを目指します。

2030年のイメージ
持続可能な観光を推進し、農家、漁家の人々との交流や、環境保全の活動への参加など、豊かな自然を生かした体験型の観光で福津を訪れる人が増えています。
また、持続可能な観光のうち一つの柱として、企業や行政機関、教育機関向けの研修地として国内外に知られ、多様な人が学びに訪れています。国内外から訪れる人をやさしく受け入れるまちになっていく、外国語を使って、福津の

基本方針
1. 国内外の人が何度も訪れたい魅力を生かす
2. ブランディングとプロモーションを強化する
3. 観光拠点を整備し、観光消費額を拡大する

まちづくり基本構想案に対する市民意見公募を実施しています
広報9月15日号でお知らせしたとおり、まちづくり基本構想案に対し、市民の皆さまから意見を現在募集しています。素案の閲覧場所や意見の提出方法など、詳しくは広報9月15日号または市公式ホームページでご確認ください。
受付期限 10月25日（木）
問い合わせ
まちづくり基本構想案について 市広報秘書課 ☎43・8113

「まちづくり基本構想について語り合う会」を開催します

皆さんから多くの意見をいただくことを目的に、基本構想案について語り合う会を開催します。参加者同士で語り合い、思ったこと、感じたことを聞かせてください。
日時 10月17日（水）①13:00～15:00 ②19:00～21:00 ※①②とも同じ内容
場所 市役所別館大ホール
対象 市内在住・在勤・在学の18歳以上の人 ※保護者同伴であれば中学生、高校生も参加可
定員 60人、予約不要
託児 生後5カ月以上の未就学児、1人300円
託児受付期限 10月10日（水）
問い合わせ 市まちづくり推進室 ☎43・8121

2030年のイメージ
自治会を中心に、地道な活動を通じて、お互いの暮らしを守っています。住民による自主防災組織は、さまざまな災害に対応できるように、日頃から防災力を高める努力を続けています。
ひとり暮らしの高齢者や障がいのある人は、地域の人がいざというときに支えてくれる安心感があります。
都市化の進展による犯罪や

基本方針
1. 災害に強いインフラ整備と地域防災力を強化する
2. 暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する
3. 社会資本の有効活用と改善の推進体制を整備する

4 安全・安心・快適に 住み続けられるまち

2030年のイメージ
自然災害の発生への対策、また、人口密度が低く、高齢化率が高い地域では、移動手段の不足や空き家の増加などへの対策も必要です。
どのような地域でも暮らしやすい生活基盤を整備していくことが、今後のまちづくりの課題の一つです。誰もが安全、安心、快適に住み続けられるまちを目指します。

基本方針
1. 災害に強いインフラ整備と地域防災力を強化する
2. 暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する
3. 社会資本の有効活用と改善の推進体制を整備する

まちづくり基本構想案に対する市民意見公募を実施しています
広報9月15日号でお知らせしたとおり、まちづくり基本構想案に対し、市民の皆さまから意見を現在募集しています。素案の閲覧場所や意見の提出方法など、詳しくは広報9月15日号または市公式ホームページでご確認ください。
受付期限 10月25日（木）
問い合わせ
まちづくり基本構想案について 市広報秘書課 ☎43・8113

2030年のイメージ
自然災害の発生への対策、また、人口密度が低く、高齢化率が高い地域では、移動手段の不足や空き家の増加などへの対策も必要です。
どのような地域でも暮らしやすい生活基盤を整備していくことが、今後のまちづくりの課題の一つです。誰もが安全、安心、快適に住み続けられるまちを目指します。

2030年のイメージ
自然災害の発生への対策、また、人口密度が低く、高齢化率が高い地域では、移動手段の不足や空き家の増加などへの対策も必要です。
どのような地域でも暮らしやすい生活基盤を整備していくことが、今後のまちづくりの課題の一つです。誰もが安全、安心、快適に住み続けられるまちを目指します。

基本方針
1. 災害に強いインフラ整備と地域防災力を強化する
2. 暮らしやすさを実感できる生活基盤を整備する
3. 社会資本の有効活用と改善の推進体制を整備する

まちづくり基本構想案に対する市民意見公募を実施しています
広報9月15日号でお知らせしたとおり、まちづくり基本構想案に対し、市民の皆さまから意見を現在募集しています。素案の閲覧場所や意見の提出方法など、詳しくは広報9月15日号または市公式ホームページでご確認ください。
受付期限 10月25日（木）
問い合わせ
まちづくり基本構想案について 市広報秘書課 ☎43・8113

市民に聞く 2030年の福津



農業がしやすい環境を
農業の担い手を増やすには、農地を集約したり区画を整理したりして、住宅開発だけでなく、農業がしやすい環境を作っていくことが必要だと思います。そんな思いを反映してほしいです。

◀いちごや米などを栽培する「くわの農園」を営み、農林水産省「農業女子プロジェクト」の一員の栗野由美さん



「ちょうどいい」まちに
過度に生産性や幸せを求め過ぎず「ちょうどいい」を追求したまちになってほしいですね。また、自分たち自身で魅力的な雇用を生み出せるよう、チャレンジ精神あふれた人も増やしていきたいですね。

▶昨年夫婦で市内に移住し、福津の魅力発信サイト「福津NOTE」を運営する、宮司2区副区長の江藤彰洋さん